

【質疑応答 Q&A】

マンツーマンディレクター会議伝達講習会 平成 29 年 1 月 8 日 さくらアリーナ

Q. 全ての試合で同様の基準で運用すべきか。

A. マンツーマンの定着が目的なので、選手のレベルに応じて対応していくことも必要。故意かそうでないかの見極めも大事。ミニバスは低学年や初心者がコートに立つ場合も多いが、状況によって柔軟に対応しあくまでもバスケットボールの上達に繋がる様に立ち回ってほしい。

Q. 試合の流れを損なったり、ベンチからの抗議を恐れてためらいがちになってしまうようにするにはどうすればよいのか。

A. まずは黄旗での注意を促し、流れの中で改善してもらうように努める。黄旗では試合は止まらないので、早めに促していくことが大事。黄旗の場合は試合中に該当チームに出向き口頭でどこが違反か説明し改善を求めること。改善が見られない場合、赤旗で時計が止まった時に再度改善を求めることになるが、なるべく簡潔に伝え、指導してもらうこと。我々は罰するのではなく、改善してもらうという心構えで臨まなければならないが、それでも抗議に対しては毅然とした態度で対応することも必要。審判への抗議と同様に、度を越すものに対しては審判からベンチテクニカルを科してもらう。(コミッショナーへの抗議はできないことになっている。)

Q. 勝ちに拘るあまり、黄旗での注意を逆手にとってくるチームはいる(特に前半)。どのように対応すればよいのか。

A. ここまでくると指導者の資質の問題だが、中学にもそのようなケースは見受けられる。それはとても残念なことだが、あくまでも我々は JBA からの通達に則りマンツーマンを定着させていくことが目的。そのためにも、通達に沿って早め早めの対応を心掛け、やったもん勝ちにならない様、運用していかなくてはならない。

Q. 新潟地区では、黄旗が上がった場合でも試合の時計が止まった際に、両コーチに現象を速やかに説明し改善を促すようにしています。この対応についてはいかがでしょうか。

A. マンツーマンの定着と理解をより深める為には、とても良い対応だと思う。

以上